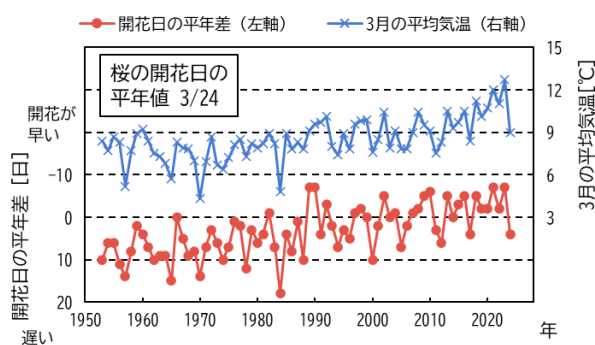


○ 今年の桜の開花日について

気象庁では、桜の開花日などを記録するため、全国の気象観測所で桜の標本木を定めています。標本木の花が5輪から6輪以上開いた状態になった最初の日が、桜の開花日とされています。

愛知県内では、名古屋地方気象台（名古屋市）に桜（ソメイヨシノ）の標本木があり、1953年から継続して開花日が記録されています。



名古屋市における桜の開花日と3月の平均気温の変化
(1953年～2024年の気象庁のデータを基に作図)

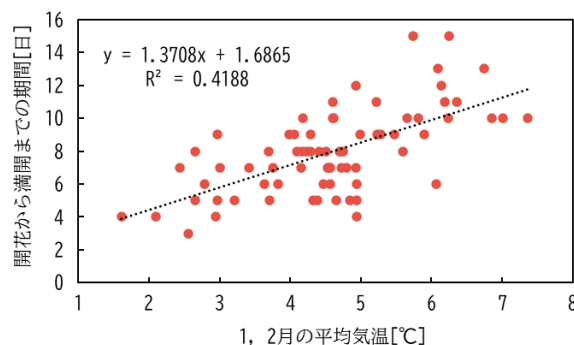
上図を見ると、3月の平均気温の高い年は開花日が早くなる傾向となっています。2024年（図中一番右の値）は、平年より4日遅い、3月28日に開花が観測されました。これは、2024年の3月の平均気温が上昇傾向にある近年より低かったため、桜の開花日が遅くなったと考えられます。

○ 桜の開花から満開までの期間について

桜の満開日とは、桜の標本木で約80%以上のつぼみが開いた状態となった最初の日をいいます。2024年の名古屋市における桜の満開日は、平年より5日

遅い、4月7日となりました。

桜のつぼみは、冬の厳しい寒さによる低温刺激を十分に受けることで休眠から目を覚まし（休眠打破）、春の温かさによって成長します。



名古屋市における桜の開花から満開までの期間とその年の1、2月の平均気温の関係
(1953年～2024年の気象庁のデータを基に作図)

冬の気温が高いと、桜のつぼみが低温刺激を十分に受けられず、つぼみ毎に休眠打破の個体差が生じます。これが開花から満開までの期間が長くなる原因の1つと考えられます。

このまま気候変動により気温が上昇すると、桜の開花が早まり、不揃いに咲いて、長く楽しめるが満開に至らない年も出てくる可能性があります。

県では、県民の皆さんに、地球温暖化対策につながる「賢い選択」(COOL CHOICE)を呼びかけています。満開の桜をこれからも楽しむためにもCO₂削減行動・省エネ行動に心がけていきましょう。

環境調査センター 企画情報部
愛知県気候変動適応センター
電話 052-954-5489 (ダイヤルイン)



適応とは、気候変動の影響に備えること。

愛知県気候変動適応センターだよりのバックナンバーはこちら
<https://www.pref.aichi.jp/site/ailccac/tekiou-dayori.html>

